

〈女流〉邦楽演奏家の歩み

堅田喜三代師に聞く

近代日本における「声と身体」が、歴史やジャンルの制約／可能性の中でどのように表現／受容されてきたか。邦楽囃子方の堅田喜三代師に、これまでの〈女流〉邦楽演奏家としての歩み、祖父・四代目中村兵藏の後継者としての新派等における演奏、大衆文化の中の邦楽の魅力などについてお話を伺います。



堅田喜三代 (かただ・きさよ)

邦楽囃子方。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒。四世堅田喜三郎、父堅田喜代藏に師事。松竹劇団新派所属。祖父・父・叔父はいずれも邦楽演奏家。その後継者として大学在学中より、新派公演、藤山直美公演、大竹しのぶ公演など松竹公演をはじめ、大劇場、小劇場問わず、舞台演劇公演での邦楽演奏、歌舞伎役者や朗読家による公演での演奏を行ってきた。俳優への演奏指導、邦楽プランニング、作曲なども担当。また、邦楽演奏会、舞踊公演、無声映画の音楽の再現など、邦楽囃子方として全国各地で活動。朗読劇への邦楽の可能性を追求する婀（あ）の会結成。2021年より神楽坂見番の講師となり、日本の文化の一つの役割とする花柳界での芸妓の指導をも行っている。長唄協会会員。婀の会代表、結毘会同人、東京神楽坂組合見番講師。

【日時】 2024年12月1日（日）14時～16時（13時40分受付開始）

【会場】 赤坂区民センター 5階 第一和室

（港区赤坂4-18-13 赤坂コミュニティーぷらざ）

【講師】 堅田喜三代 師（劇団新派邦楽部／邦楽囃子方）

聞き手：後藤隆基（神奈川大学非文字資料研究センター客員研究員／立教大学兼任講師）

【定員】 15名（無料・要申込・先着順）

【お申込】 <https://forms.gle/Ugqium5exYi8kPai9>

【問合せ】 ryukigoto1981@gmail.com（後藤）

